

Q 2 : 道徳の授業の指導過程にはどのようなものがあるか。

A : 道徳の時間は、児童生徒一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的価値を身に付けていく時間である。道徳の授業には様々な指導過程が考えられるが、ここでは、「導入段階 展開前段 展開後段 終末段階」の四つの段階からなる資料を用いた一般的な指導過程を紹介する。

【一般的な指導過程】

導入段階（問題意識を温める）

- ・ 授業の導入では、児童生徒の心を引きつけて、話し合おうとする問題に児童生徒の気持ちを焦点化する。
- ・ 絵や写真、日記、ニュース、調査の結果などを基に児童生徒の心を揺さぶり、問題意識を掘り起こす。

展開前段（資料の世界で学び合い、問題を追求する）

- ・ 児童生徒が資料の中の主人公に共感したり、主人公の行為を批判的に検討したりして問題を追求する。
- ・ この段階が授業の中心となるが、特に、中心発問では十分に時間をとるようにする。

展開後段（資料から離れ、自分自身の問題として改めてとらえ直す）

- ・ 話し合いが資料の世界だけで終わるのでは、児童生徒は主題を自己の生き方の問題としてとらえることができにくくなる。
- ・ 資料で話し合ったことを生かし、各自の体験などを想起することで、児童生徒が自分自身の今までや現在の姿をより深く見つめられるようにする。

終末段階（ねらいとする道徳的価値をまとめ、今後につなげる）

- ・ ねらいとする道徳的価値について整理し、今後の自分のことについて見通しや意欲をもてるようにする。
- ・ 学習での余韻を大切にす。

指導過程の構想にあたって

- ・ 指導過程の構想にあたっては、まず、展開前段の中心発問を固め、それを生かすために、その前後の基本発問を考える。次に展開後段、そして導入や終末を考えると手順が、まとまりのある授業づくりに結び付きやすい。
- ・ 少なくとも導入から順次考えていく授業づくりは、児童生徒の意識を引きずる指導に陥りがちなので気を付けたい。

このような指導過程を基本とするが、いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることも大切である。

指導段階		心情面の段階	留意点	主な発問の例
導 入	方向付け	気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・価値や資料への方向付けをする。 ・雰囲気づくりをする。 	<p>今までに したことはありませんか。 今日は について考えましょう。 みんなで の歌を歌いましょう。</p>
		<p>問題意識を温める</p>	<p>【体験活動等との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の提示 ・写真の提示 <p>3～5分程度</p>	<p>【発問について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本発問...ねらいに迫っていくために必要な発問。 ・中心発問...資料を通して自己を見つめさせる、一番の山場での発問。ねらいに直接迫る。 ・補助発問...かみくだきや、問い返しであり、基本発問や中心発問を補う発問。
展 開	前 段	とらえる。 出会う。 考える。 感動する。 明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の提示を工夫する。 〔範読、場面絵、視聴覚教材など〕 ・登場人物に共感させる。 〔役割演技、動作化、ペープサートなど〕 ・話し合い活動を行う。 〔資料から離れない。グループやペアによる話し合いや座席を移動しての立場討議等の工夫をする。〕 	<p>どなたどこに感動しましたか。 主人公が生きたのは、どんな時代でしたか。 主人公はここでどんなことを考えたのでしょうか。 主人公はこのときどんな気持ちだったのでしょうか。 主人公はどんなことを考え迷ったのでしょうか。</p>
		深く考える。 比較する。 納得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを教師が整理して板書することで、価値観の類型化を図る。 〔・正価値と反価値 ・自律的と他律的 ・道徳性の序列〕 <p>30～35分程度</p>	<p>【中心発問を行うときの注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料中の人物に自分を重ね、その人物に託して自己を語らせる。 ・多様な価値観を引き出すようにする。 ・資料には様々な価値が含まれるが、ねらいを達成するために価値を焦点化するような発問をする。 <p>さんの意見に対してどう思いますか。 同じような意見はないですか。 自分の考えはどれに近いですか。また、それはなぜですか。 自分と立場の違う人に何か言うことはないですか。</p>
展 開	後 段	高める。 目覚める。 見付ける。 受けとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から離れる。 	<p>【直接体験や間接体験を問う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の経験を問う。(直接体験)
		<p>資料から離れ、自分自身の問題として改めてとらえ直す</p>	<p>【体験活動等との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分について振り返らせて、価値について自覚を深めさせる。 <p>5～10分程度</p>	<p>【行為を問う】</p> <p>今までに同じような体験をしたことがありますか。</p> <p>【行為・判断を問う】</p> <p>したのは、どうしてですか。</p> <p>【行為・判断・心情を問う】</p> <p>したとき、どんな気持ちがありましたか。</p> <p>・見たり聞いたりした経験を問う。(間接体験)</p> <p>今までに同じような話を聞いたことがありますか。</p>
終 末	整理・まとめ	思い出す。 ふくらます。 心掛ける。 まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめをする。→ <p>教師による説話、友だちの作文や保護者の手紙の紹介、格言・ことわざ・新聞記事等の引用など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による説話の中で失敗談や葛藤、感動体験などを語ることは、子どもと人間関係をつくり、共に悩み、共に学ぶ姿勢を示す上で大変有効である。 ・学習を終えた後の余韻や充実感を大切にす。 ・感動的な内容の場合には、余韻を生かしより心情を高めるような工夫をしたり、余韻を残したまま終了したりする。 ・板書を生かしながら、視覚を通して大切な心のもち方等を印象付ける方法もある。
		<p>ねらいとする道徳的価値をまとめ今後につなげる</p>	<p>【体験活動等との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を振り返る。 ・今後の活動を考える。 <p>3～5分程度</p>	

「心のノート」については、各指導段階で効果的に活用するよう心掛ける。